

矢板市観光振興アクションプラン【概要版】

計画期間【令和4年度～7年度】



おしらじの滝

令和3(2021)年9月
栃木県矢板市

矢板市観光振興アクションプラン 令和3(2021)年9月

発 行 矢板市経済建設部商工観光課
〒329-2192 栃木県矢板市本町5番4号
T E L 0287-43-6211
Eメール kankou@city.yaita.tochigi.jp

矢板市観光振興アクションプランとは

アクションプランでは、上位計画である「やいた創生未来プラン」を踏まえ、矢板市の良さを生かしつつ、SDGsやSociety5.0、新しい生活様式などを踏まえた中で、観光交流人口や経済波及効果の拡大、さらには、そこに住む人々がより幸福を感じることが出来るシビックプライドの醸成等、持続可能な矢板市の観光について、観光関連団体、観光事業者、市民、行政等が互いに協働して取り組むための方向性を示し、今後に取り組むべき具体的な施策と事業を示します。

観光振興の基本理念

来てよし! 住んでよし! 観光によるまちづくり

矢板市の観光資源を生かした、来訪者に選んでもらえる観光地づくりを通じて、観光産業にとどまらず、農林業や商工業など、地域全体の経済を活性化させるとともに、地域住民自らが観光振興の主体であることを認識することで、自分の地域を誇りに思い、矢板市に「住み続けたい」と思える活力に満ちたまちを目指します。

来てよし!
観光を通じた
地域経済の活性化

住んでよし!
矢板市に「住み続けたい」
と思えるまちづくり

観光振興のコンセプト

豊かな地域資源を生かした観光スタイル

矢板市には、自然、歴史、文化のほか、基幹産業である農業や林業など、多種多様で豊かな地域資源があります。これらの豊かな地域資源を生かした観光スタイルをコンセプトとして、観光関連団体、観光事業者、市民、行政等が互いに協働して観光振興に取り組むことで、本市が目指すまちづくりにつなげます。

観光振興の目標

観光による経済波及効果の拡大、 シビックプライドの醸成

「豊かな地域資源を生かした観光スタイル」を確立することで、観光による経済波及効果を拡大させ、さらには、地域住民自らが来訪者に選ばれる観光資源があると認識することで、自分の地域を誇りに思うシビックプライドを醸成します。

観光振興の数値指標

	現状値 (R2)	目標値 (R7)
指標1 観光客入込数	1,742千人	2,000千人
指標2 観光消費額	7,000円	11,000円
指標3 スポーツツーリズム経済波及効果	14億168万円	21億2,500万円
指標4 観光振興施策市民満足度	24.2%	32.0%

目標達成のための5つの施策(歯車)



観光基盤の整備

- ハフヶ原周辺や長峰公園などについて、観光関連団体、観光事業者、地域住民が活用できるよう、利用条件整備や支援のほか、民間力も活用し、観光基盤の整備を進めます。
- 観光資源であるハフヶ原のツツジなどの景観について、関係機関や市民ボランティアと連携し保全に取り組みます。
- 文化スポーツ複合施設やフットボールセンター等を活用し、スポーツツーリズム等の市内観光の拠点とするほか、日本遺産について関係自治体と連携し整備を進めます。



観光推進体制の強化

- 観光関連団体、観光事業者と行政がビジョンを共有し、官民一体で取り組みます。
- 観光振興を推進する組織として、(一社)矢板市観光協会の機能強化を図ります。
- スポーツツーリズムを推進する矢板スポーツコミッション、泉地区の地域活性化を推進する泉交流協議会について、機能強化を図るほか、今後のあり方について検討を行います。



観光商材の開発、磨き上げ

- 矢板市の自然、歴史、文化などの地域資源を生かした観光の提案や、ツアー、土産物等の観光商材の開発、磨き上げに取り組みます。
- 基幹産業である農業・林業と連携した体験交流型観光の推進や、withコロナ、afterコロナ時代に即した観光商材、インバウンドを見据えた観光商材の開発に取り組みます。
- 観光商材は共通するテーマやストーリーでつなぎ、回遊性を向上させ、滞在時間の延長や再来訪を促します。



観光情報の発信強化

- 来訪者に対し、観光案内所を拠点とし周辺施設と連携のうえ、積極的なPRを行います。
- 旅先を検討している方に対して、マーケティングに基づく周知、各種メディア、SNSを活用した周知を行います。
- 「いちご一会とちぎ国体」の開催を契機とし、来場した方に矢板の魅力を知ってもらうことで誘客につなげます。



観光を通じたシビックプライド醸成機会の創出

- マイクロツーリズムの推進や、学校の校外学習での観光の活用を通じて、地域住民に対し、矢板の観光への関心を高めてもらいます。
- 観光ボランティアやイベントに参加してもらうことで、地域住民自らが、観光振興の主体であることを認識してもらい「シビックプライド」を培います。